

## 地方創生加速化交付金事業検証表

資料 6

|            |  |           |             |         |
|------------|--|-----------|-------------|---------|
| 交付金事業名     | 蕨ブランド創出プロジェクト  |           |             |         |
| 担当部課名      | 総務部 庶務課  | 総務部 政策企画室 | 市民生活部 商工生活室 |         |
| 総合戦略での位置づけ | 基本目標Ⅳ にぎわいと活力、市民文化と歴史がとけあう元気なまち  |           |             |         |
|            | (4) ワクワクわらび！にぎわい創出プロジェクト   |           |             |         |
|            | ①蕨ブランド戦略やシティプロモーションの推進   |           |             |         |
| 総合戦略の数値目標  | 指標名  | 目標年月      | 目標値         | 実績値     |
|            | 中心市街地における休日の歩行者・自転車の通行量  | 平成31年度    | 43,585人     | 40,969人 |
| 事業の目的      | 蕨市の特性である東京都心への近接性や市内移動も含めたアクセスのよさ、生活利便性、歴史に培われた街並みや文化、市民による活発な地域活動に基づき、蕨ブランドの創出など新しい事業活動などの促進をはじめ、既存商店街の魅力の向上や事業者の経営指導のほか、中心市街地のにぎわいづくりなどを支援することにより、まちのイメージアップを図るとともに、にぎわいと活力あるまちを目指す。 |           |             |         |

|               |   |           |
|---------------|---|-----------|
| コスト<br>(単位 円) | 総事業費  | 交付金対象額    |
|               | 9,083,384   | 2,330,000 |
| 事業の概要         | 蕨市と蕨商工会議所が協働で、蕨らしさ(歴史、ストーリー性)などを有した商品を審査し、その中で品質を含め一定基準を満たした商品を蕨ブランドとして認定する。蕨ブランドを周知するため、広報紙への掲載やパンフレットの作成、及び市内外のイベントに出展する。また、蕨ブランドとなりうる市の隠れた特産品を発掘するとともに、蕨ブランド認定品をふるさと納税返礼品とすることで、認定品の知名度向上及び販路拡大を図る。また、蕨ブランドを売り込んでいくための指針となる、シティプロモーション指針の策定に際し、アドバイザーを招へいする。 |           |
| 事業効果          |   |           |

|            |   |             |      |     |
|------------|---|-------------|------|-----|
| 総合戦略のKPI   | 指標名   | 目標年月        | 目標値  | 実績値 |
|            | 蕨ブランド認定数  | 平成31年度までの累計 | 5個以上 | 5個  |
| 本事業に係る総合評価 | 総合戦略のKPI達成に有効であった   |             |      |     |
| 理由         | 市のPRとにぎわい創出を目指して「蕨ブランド認定制度」を平成28年度に開始し、まちの魅力を伝える商品を地域ブランドとして5件認定した。<br>認定品には認定書及び認定ステッカー等を交付した。また、市広報紙・ホームページ、ケーブルテレビ等で紹介したほか、認定品パンフレットへの掲載、マスコミ等への公表など、蕨市、蕨商工会議所をはじめ、関係団体が各種媒体や機会を通じて広くPRしたことでまちのにぎわい創出につながったと考えられるため。<br>また、シティプロモーション指針内でも「蕨ブランド認定品」を含めたふるさと納税品のPRをしたことも、にぎわい創出に効果的であったと考えられるため。 |             |      |     |

|       |   |
|-------|---|
| 今後の方針 | 事業の継続   |
| 理由    | 引き続き、蕨ブランド戦略を推進することで、蕨ブランドの普及・啓発・定着や市民の愛着意識を育てるとともに産業の活性化につなげていく。 |